

献辞

平成一五年度をもって、本学人文学部社会科学科から島津秀典先生、宮本忠先生、および米川紀生先生がめでたく、定年退官されることになりました。先ず、三先生が人文学部教授として本学部にご着任以来、教育・研究および学部運営全般にわたり、多大のご尽力とご指導を頂きましたことに対し、本学部教員を代表して深甚の謝意を表すものであります。

島津秀典教授は、本学部創設二年目の昭和五九年四月、「経済社会の基本構造Ⅰ（経済原論）」担当の教授として着任されて以来一九年間、人文学部で教育・研究・学内行政全般に貢献されました。先生のご専門分野は経済理論・日本経済論であり、本学部ご在籍の一九八〇年代後半頃から発生したバブル経済の発生からその終焉を経て大きな変動に見舞われた日本経済の諸問題を構造的に明らかにされ、『現代日本経済論』（編著、青木書店、一九八八）をはじめ、沢山の著書、論文を発表されました。また、教育にかける情熱は変わることなく、常に分かりやすい教材を準備されて熱心に講義・演習などのご指導に当たってこられ、多くの学生から慕われる先生でありました。長年の教育・研究各般に及ぶご貢献に対しまして、心よりの敬意を捧げる次第であります。

宮本忠教授は、創設三年目の昭和六〇年四月、「政策科学Ⅲ（地方行政論）」担当の教授として着任以来一八年間、人文学部教授として教育・研究、学内行政は言うまでもなく、つながりの深

いタスマニア大学などオセアニア諸国との国際交流活動にも熱心に挺身されました。『進化する環境条例』（高文堂出版社、一九九六）、『地方自治原論』（高文堂出版社、一九八九）をはじめ、沢山の著書をご執筆、出版されたことも先生の優れた研究活動の証左と敬服申し上げます。また、地方行政論、とりわけ環境行政の専門家として三重県をはじめ地方自治体の政策形成に深く関与され、地方行政の発展に多大の貢献を果たされましたことは特筆すべきご功績と存じ上げ、深甚の敬意を表したく存じます。眼病に悩まされながらも変わることなく学生指導に情熱を燃やされるお姿は、私ども教員一同、等しく尊敬申し上げますにおれません。

なお、米川紀生教授は昭和六一年四月以来、「市民社会の基本構造Ⅱ（社会政策）」の教授として一七年間在籍され、教育・研究等に貢献されましたが、強いご辞退の意向をもたられましたので、ご事績紹介等を割愛させて頂きます。

ともあれ、この先生方の長年のご指導に対しまして再び感謝の意を表しつつ、今後のご健勝と一層のご活躍を祈念申し上げ、粗辞ながら謹んで先生方の机上に呈上させて頂きます。

平成一六年三月

三重大学人文学部長 渡邊悌爾